

2018年邦人被害概況

1 被害の特徴

(1) 全体的特徴

ア 2018年、在メキシコ日本国大使館及び在レオン日本国総領事館に届けられた邦人の犯罪被害件数は、126件であり、2017年の164件と比較して38件減少した。

しかし、2015年以前の件数が100件前後を推移していたことに鑑みると、依然として高い数値で推移しており、予断を許さない状況と言える。

イ 罪種別では、最も多かった被害は窃盗の76件である。次に強盗被害が31件であり、窃盗と強盗で被害全体の85%を占めている。強盗被害において、被害者が負傷したケースは8件である。

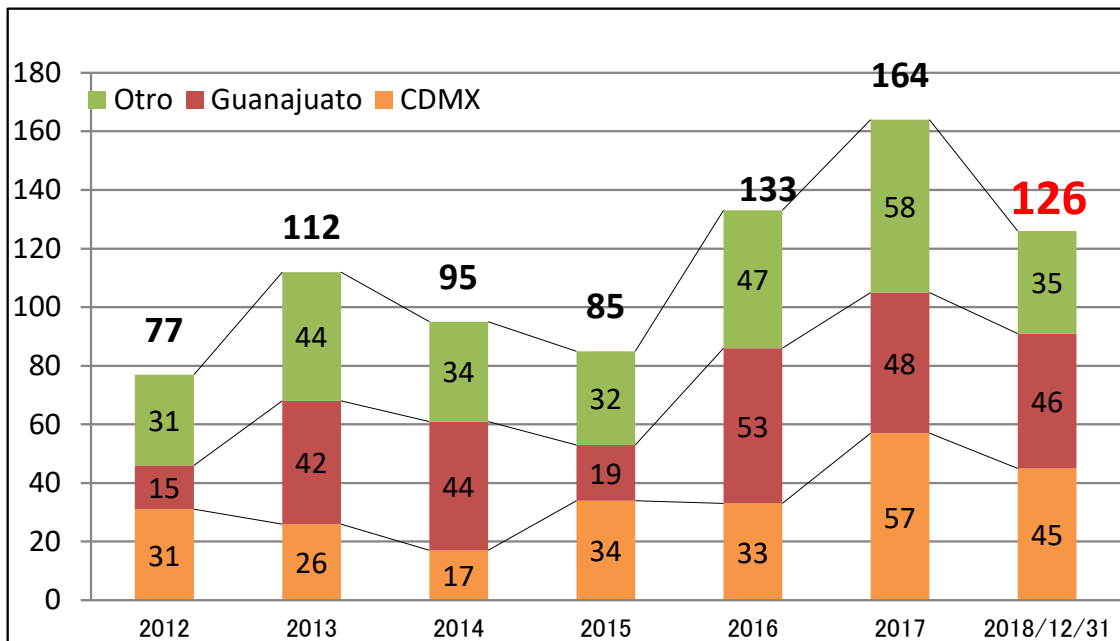
2017年の窃盗被害件数は116件であり40件減少し、強盗被害件数は37件であり6件減少した。

ウ 発生地域別では、メキシコ市が45件（前年比12件減）、グアナフアト州46件（前年比2件減）と、この地域における被害が全体の大半を占めている。

アグアスカリエンテス州は4件（前年比6件減）とケレタロ州は3件（前年比8件減）と、被害件数が大きく減少している。

一方、キンタナ・ロー州における被害が14件（前年比1件増）、ヌエボ・レオン州4件（前年比2件増）と増加がみられた。

表1 邦人被害件数



(2) 地域別特徴・傾向

ア メキシコ市

(ア) メキシコ市における45件の被害の内訳は、窃盗28件（スリ15件、置き引き6件、空き巣2件、ひったくり1件、車上狙い1件、その他3件）、詐欺9件、強盗6件（路上強盗5件、運転

中の強盗1件)、恐喝1件、スキミング被害1件であった。

(イ) 窃盗被害は地下鉄におけるスリ被害が多くを占めている。身に着けていたバッグやポーチからすり取られるケースや、混雑した車両に乗車する際に後ろから押され、その隙に盗まれたという報告がある。置き引きはホテルやレストランでの報告が多く、被害者の目に付く場所に荷物を置いていても一瞬の隙を突かれて盗まれてしまう場合もある。

(ウ) 詐欺(及び詐欺未遂)被害では昨年に引き続き、シカゴ出身の米国人と名乗る犯人による詐欺被害が6件発生した。犯人は白人の場合と黒人の場合があるが、手口は酷似しており、「荷物を無くしてお金が無い。しかし、アメリカに帰国しなければならない。アメリカの妻からあなた(被害者)の口座にお金を振り込ませるから、そのお金を引き出して欲しい。」等と言葉巧みに被害者を信用させたうえ、さらに、「お金をうまく振り込めないのにお金を貸して欲しい。」と申し向けて現金を騙し取るといったもので、英語が話せる外国人旅行者(特に女性)を狙っているものとみられる。

また、「あなたの口座に高額な健康食品の引き落とし請求があるが、身に覚えはあるか。」等と銀行員を装って電話を掛け、被害者からキャッシュカード番号及び暗証番号等の情報を聞き出し、口座の現金を不正に引き落とすという被害が報告されている。

(エ) 強盗被害は、メルセー市場において後方から突然首を絞められ、気を失っている間に所持品を奪われるという被害が昨年に引き続き発生している。

その他、赤信号で停車中の車両を狙ったもの、マイクロバスの乗客を狙ったもの、銀行で現金を引き出した後のタイミングを狙ったものがあり、いずれもけん銃を使用したものであった。

また、流しのタクシーに乗車し、勧められた飲料を飲んだところ意識を失い、気付くと所持品を奪われていたという被害の報告もある。

イ グアナファト州

(ア) グアナファト州における被害は46件(前年比2件減)であった。

被害の内訳は、窃盗27件(車上狙い16件、空き巣5件、事務所荒らし2件、置き引き2件、スリ1件、自動車盗1件)、強盗14件(運転中の強盗5件、路上強盗3件、住宅強盗1件、事務所強盗1件、その他4件)、詐欺2件、恐喝1件、スキミング被害1件、医療被害1件であった。

(イ) 窃盗は車上狙いが多くを占め、路上駐車時やコンビニエンスストアの駐車場利用時等に被害が発生している。

(ウ) 強盗被害は、信号待ちの車両を狙ったもの、走行中の車両に対して石等の障害物を道路上に置いて停車させ、または警察を装って強制的に停車させる等して犯行に及ぶもの、銀行利用後のタイミングを狙ったもの、コンビニエンスストア等の店舗に押し入り店舗内の客を狙ったもの等が発生している。

ウ キンタナ・ロー州

(ア) キンタナ・ロー州における被害は14件(前年比1件増)。

被害の内訳は、窃盗8件(置き引き7件、車上狙い1件)、強盗5件(路上強盗4件、住宅強盗1件)、詐欺1件であった。

(イ) 窃盗は置き引きが多くを占め、ホテルのロビー、レストラン等の飲食店、ビーチ及び観光地
付近の路上等において発生している。

(ウ) 強盗は、歩行者を狙って複数で襲いかかり所持品を奪うものや、流しのタクシー（リブレ）
に犯人が潜み、乗車してきた被害者を脅して金品を強奪するという手口が報告された。いずれ
も深夜、カンクンのダウンタウンやホテルゾーンにおいて発生している。

エ その他の地域

発生地域別では、アグアスカリエンテス州及びヌエボ・レオン州が各 4 件、ケタロ州及びメ
キシコ州が各 3 件、バハ・カリフォルニア州及びサンルイスポトシ州が各 2 件、タマウリパス
州、オアハカ州及びユカタン州が各 1 件となっている。

2 被害の内訳等

(1) 届出件数

126 件（前年比 38 減）

本集計は当館に届け出があった件数であり、昨年に比べ届出件数は大きく減少しているが、大き
な被害が無かった場合等は大使館に被害の届け出を行っていない可能性も考えられ、実際の被害件
数はこれより多い可能性がある。

(2) 犯罪手口

強盗	31 件（-6）	※凶器使用 22 件（うち、けん銃使用 15 件）
脅迫・恐喝	2 件（-2）	
詐欺	13 件（+8）	
窃盗	76 件（-40）	
※うち、車上ねらい	24 件（-17）	
置引き	18 件（-5）	
すり	17 件（-16）	
空き巣等侵入窃盗	11 件（-5）	
自動車盗	2 件（+2）	
ひったくり	1 件（±0）	
その他窃盗	3 件（+1）	
その他	4 件（+3）	

ア 強盗被害は 31 件であり、凶器を使用したケースは 22 件（けん銃使用 15 件、その他刃物等使用
7 件）であった。被害発生時間別では日中 11 件、日没後 20 件であり、夜間だけでなく昼の時間帯
にも被害は発生している。被害者が負傷したケースは 8 件であり、犯人に抵抗しなくても危害を
加えられるケースもあった。

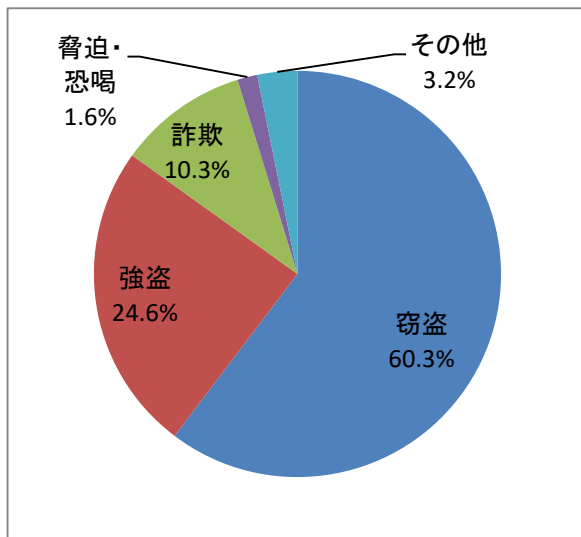
強盗の手口としては、路上強盗が約半数を占め、自動車運転中の被害も多く発生していること

から、移動時は十分に注意する必要がある。

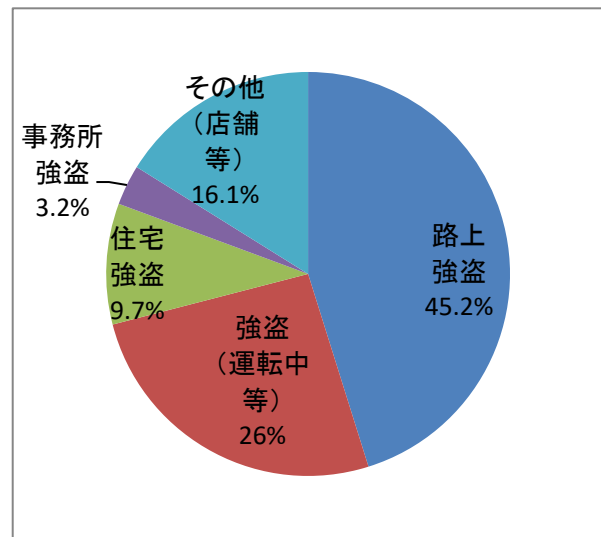
イ 詐欺被害は13件で、昨年に比べ8件増加している。従来から発生しているような旅行者を狙った手口から、電話を使って言葉巧みにカード情報等を聞き出して悪用する手口も報告されている。

また、キャッシュカード等カードのすり替えによる被害や、スキミングの被害も依然として発生している。

ウ 窃盗被害は76件で、その大半が車上狙いやスリ、置き引きであった。



グラフ1 罪種別



グラフ2 強盗の手口別

(3) 発生場所別

路上	32件
駐車場	23件
自宅	13件
飲食店等店内	11件
地下鉄	11件
事務所	7件
空港	5件
タクシー	4件
ホテル	4件
長距離バス	3件
銀行・ATM	3件
ガソリンスタンド	2件
マイクロバス	1件
コンビニエンスストア店内	1件
病院	1件

その他店内	1件
不明	4件

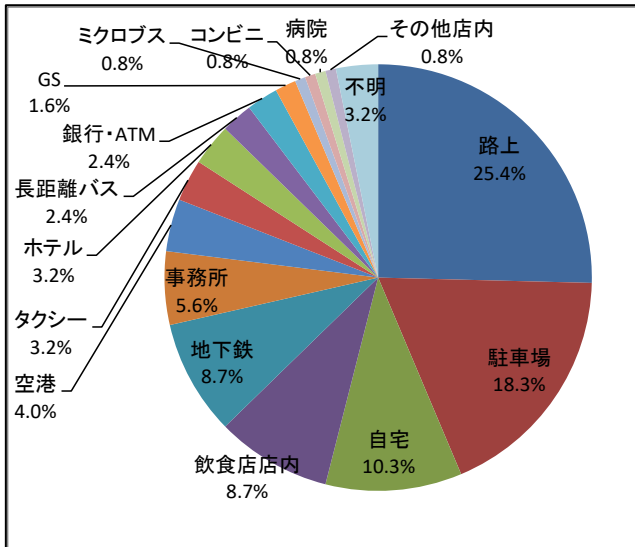
(4) 被害者別（複数被害者がいる場合もあるため、被害件数とは一致しない）

長期滞在・永住者 79名（-30） 男性：61名（-28），女性：18名（-2）

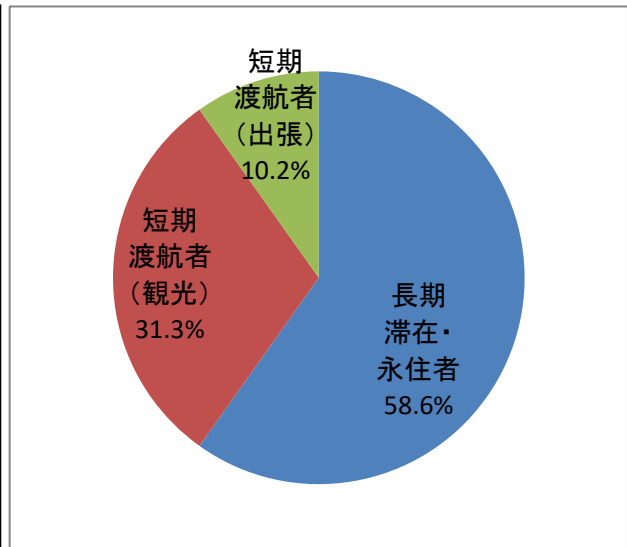
短期渡航者（観光） 40名（-6） 男性：29名（-5），女性：11名（-1）

短期渡航者（出張） 13名（+3） 男性：13名（+3）

長期滞在者の被害件数が大きく減少している一方、短期渡航者の被害件数は微減であった。



グラフ3 発生場所別



グラフ4 滞在形態別

被害の詳細については、[「邦人被害一覧」](#)をご参照ください。